

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育課程の再編成と実施方針に基づき、各コースの教育内容の特質に応じた体系的な学習に導く授業科目を開設し配置する。	→教育課程表の見直しと規程の改正	B	B	A	A	/
2. 初年時教育を強化し、履修基準年度を見直し、履修単位数制限を強化し、教育効果の向上を図る。	→必修科目の増加数、履修基準年度の見直し数、商学演習の履修率の変化、研究演習の開講数と所属率	B	B	A	A	/
3. 産業界との連携により実践的教育方法を導入し活用する。	→該当する科目・クラス数および履修者人数	B	B	A	A	/
4. マルチメディアを活用した教育の強化を図る。	→該当する科目・クラス数および履修者人数	B	B	B	B	/
5. 外国語教育と専門教育に関する学力の保証を図る。	→TOEICの平均点、各専門科目の合格率と平均点、日商簿記検定をはじめ各種検定試験の合格率など	C	C	C	C	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいて教育課程を再編成し、各コースの教育内容の特質に応じた体系的な学習に導く授業科目を開設し配置した。学部における初めての試みとして、6つのコース毎に履修モデルを提示した。
目標2	2012年度より、必修科目は1科目から2科目に増えた。商学演習の履修率は99.84%（所属なし1名）であり、研究演習の開講数は31、所属率は77.46%であり、課程に相応しい教育実態となっている。
目標3	産業界との連携による実践的教育について、2012年度、該当する科目数は9科目、総履修者数は1,671名であった。いずれも増加傾向にあり、設定目標が達成されている。
目標4	マルチメディアを活用した教育については、該当する科目数、クラス数および履修者数とも、ほぼ変わっていない。ただし、教育は適切に行われている。
目標5	TOEICの平均点、各専門科目の合格率と平均点、日商簿記検定をはじめ各種検定試験の合格率とも、ほぼ変わっていない。さらに高い平均点、合格率が目指されているところである。
備考	